

女性研究者研究活動支援事業

(実施期間：平成 24～26 年度)

実施機関：福井大学（総括責任者：眞弓 光文）

プロジェクトの概要

(1) 支援室の体制と具体的な活動内容

男女共同参画推進室を男女共同参画推進センターに改組し、人事委員会と連携した学長直属体制をとる。副センター長が部門長を務める女性研究者活動支援部門にコーディネーターを置き、全学的な女性研究者支援活動の企画・実施を担う。女性支援ルームを設置し、学内外アドバイザー、女性研究者活動相談員との連携により相談体制を構築するとともに、交流ネットワークの全学組織化を行う。また、シンポジウムやセミナーによる意識啓発を行う。女子学生への研究職キャリアガイダンスを行い、裾野拡大を図る。

(2) 研究を支援する者の配置計画

研究支援員や技術補佐員、RA・研究補助員の配置による研究活動支援を行う。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果 (システム改革)	実施体制	実施期間終了 後の取組の継 続性・発展性
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

男女共同参画推進センターを中心とする支援体制を整備し、女性研究者の支援及び増加のための様々な取組をバランスよく実施し、女性研究者の在籍数、採用数、離職者数に係る所期の目標を達成したことは評価できる。女性教員が特に少ない工学系部局において、女性テニユアトラック制度等の導入により女性教員を増加させたことは評価できる。今後は、自然科学系の上位職階における女性テニユア教員の増加を期待する。

- **目標達成度**：女性研究者の在籍数・採用数の目標や、離職数の減少などの目標は、おおむね達成しているが、女性研究者の上位職への登用については、自然科学系分野において任期なしの女性の教授、准教授の増加は、ごく僅かであることを考えると、目標を十分に達成したとは言い難い。自然科学系分野の優れた女性教員の上位職登用につながる取組が必要である。
- **取組**：女性研究者のニーズ把握を的確に行い、ライフイベント中の女性研究者に対する様々な支援を実施したことは評価できる。さらに、女性限定公募や分野を広域化した公募といった取組により、工学系の女性研究者の採用が進んだことは評価できる。
- **取組の成果（システム改革）**：科学研究費補助金の採択件数及び獲得額が大幅に増加しており、女性研究者の研究力が向上した成果として評価できる。さらに、研究支援者が研究者に復帰する事例や大学院へ進学する事例が見られ、研究支援者に対するキャリアパス構築支援の成果と

して評価できる。

- **実施体制**：男女共同参画推進室を学長直属の男女共同参画推進センターに改組し、企画戦略担当理事をセンター長とする全学的な推進体制を構築したことは評価できる。さらに、全学の人事委員会に女性委員を新たに追加したことも評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：実施期間終了後も十分な予算を確保し、取組を継続、発展させており評価できる。さらに、第3期中期目標期間に女性教員の積極的登用や女性管理職等の数値目標を設定し、具体的な計画策定を進めていることは評価できる。